

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福井県～

課題とその分析

- ・小学校外国語教育の早期化、教科化に対応する教員の指導力向上と小中連携の推進。
- ・言語活動の高度化に対応できる教員の指導力および英語力の向上。

課題解決のための具体的な対策

- ①研修協力校において、事前検討会と公開授業を実施。その際、県内の大学教授に事前・事後研究会の指導助言者を依頼。公開授業の開催については県内全域に周知し、指導や取組について広めていく。
- ②教員の指導力と英語力の向上に向けて、計画的に研修を実施する。
- ③県教委が小中高教員に外部検定試験の受験機会を設定し、教員の英語力向上を目指す。中高の英語教員には準1級程度の英語力を備えるように、市町教育委員会と連携しながら各学校に周知徹底する。

成果①

- 他校種の授業参観が進み、連携の一助となっている。
H30 10回の公開授業に、延べ26名の他校種教員が参加。
- 研修協力校では、教員・児童生徒双方の英語使用率が向上。生徒が自分の思いや考えを英語で伝えようとする姿が定着。

成果③

- H26は、本事業の事業費を活用し、中高ほぼ全教員を対象に実施。H27～30は、本事業の事業費または県費を活用して継続実施。
- 生徒の英語力(中学生:英検3級以上相当、高校生:英検準2級以上相当)

中学校	38.4%→62.8%(全国1位)	(H26→H29)
高校	35.8%→52.4%(全国1位)	
- 英検準1級程度の英語力を有する教員の割合が向上(H26→H29)

中学校	49.4%→62.2%(全国1位)
高校	86.3%→91.3%(全国1位)
- 教員の授業における英語使用率が向上(H27→H29)

中学校	69.8%→80.0%
高校	52.1%→57.1%
- 小学校教員の英語力向上に対する意識の向上
H28より受験対象者を拡充、小学校教員の希望者も受験可能とし、毎年約30名が受験。

成果②

- 小学校学級担任対象外国語研修 (H28～30 約680名参加)
- 発音指導法・語学番組活用研修 (H28～30 約810名参加)
- ベネッセコーポレーションと連携したスピーキングテスト研修(全中学校・高等学校より参加)
- 神田外語大と連携した小学校英語研修 (H27～28 県内全小学校191校より参加) 等



<小学校学級担任対象外国語研修の様子>

成果と課題

■成果

- 中高において、H26とH29を比較すると、生徒の授業における英語による言語活動時間の割合が向上した(中学校・・・55.6%→72.0%、高等学校・・・53.0%→56.0%)。小中高すべての校種で、「言語活動を通して英語によるコミュニケーション能力を向上させる」意識が浸透し、授業改善が図られた。
- 継続的な研修や公開授業の開催により、小学校においては教員の英語力や指導力の向上につながり、移行期間1年目をスムーズに迎えることができた。
- 中学校のスピーキングにおけるパフォーマンステスト実施状況については、目標回数に到達しており、4技能の適切な評価に向けた取組が進んだ。

■課題

- 異校種間も含めた公開授業の場を今後も継続して設定し、授業参観や事後研究会を充実させることで、小中高連携した授業改善につなげていく。
- CAN-DOリストの公表率を向上させ、CAN-DOに基づいた指導と評価の一体化を促進する。
- 特に高等学校においては、パフォーマンステストの実施率を向上させるとともに、スピーキングテストの評価の観点や評価規準の足並みを揃えていく。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立荒土小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業研究会の様子

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業は分かりますか？

H29 72% → H30 100%

Q英語の授業で学習したことは、現在や社会に出てからの生活に役立つと思いますか？

H29 84% → H30 95%

成果②

- ・言語活動を工夫することで、児童が相手意識をもってコミュニケーションを進めようとする姿勢が見られるようになった。
- ・やり取りで授業を進めるスタイルに教師も児童も慣れてきており、簡単な英語の指示で児童が活動を始められるようになった。
- ・ALTに対して、自分の知っている英語を使って尋ねたり、話したりする意識が高まった。
- ・児童の英語に対して、適切なタイミングでフィードバックすることで、英語を使って話そうとする意欲が高まっている。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立三室小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（ALTと教師のインタラクション）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業は分かりますか？

H29 40% → H30 100%

Q先生や友達の英語を聞いて、どんなことを話しているか分かりますか？

H29 60% → H30 100%

成果②

- ・自分の言いたいことを何とかして伝えようと、知っている単語やジェスチャーなどを使いながら意欲的に活動に取り組む児童が増えた。
- ・教師によるデモンストレーションを見せたり、実際に学級全体で何度も聞いたり言ったりしながら活動を進めたりすることで、児童が何をすればよいかを理解し、抵抗なくペア活動ができるようになった。
- ・外国語活動の時間を楽しみにしている児童が増えた。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立鹿谷小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（子ども同士のインタラクション）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の学習は好きですか？

H29 78% → H30 84%

Q英語を使って自分の気持ちを話したり書いたりして表現することは好きですか？

H29 42% → H30 67%

成果②

- ・やり取りをしながら授業を進めることで、児童が英語を聞いたり言ったりする機会が増えるとともに、異文化や言語に関する興味関心が高まった。
- ・自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、言いたいことが伝わった達成感を感じたり、友達のことをよく理解できたりするようになった。外国語以外の授業においても積極的に活動に取り組むようになってきた。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立成器西小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（ALTとのやり取り）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業で、自分の好きなことやできることなどを友達に英語で話していますか？

H29 96% → H30 100%

Q英語を使って自分の気持ちを話したり書いたりして表現することは好きですか？

H29 48% → H30 67%

成果②

・児童が自分の伝えたいことを、既習の語句や表現を使って、何とかして話そうとする姿が多く見られるようになった。

・教師が、児童が本当に伝えたい内容を話せるような場面や状況の設定を工夫することができるようになってきた。

・教師と児童のやり取り、児童同士のやり取りで授業を進めることができようになり、言語活動中心の授業が展開できるようになった。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立成器南小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



研究会の様子

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業は分かりますか？

H29 82% → H30 92%

Q先生や友達の英語を聞いて、どんなことを話しているか分かりますか？

H29 84% → H30 92%

成果②

- ・まとまりのある英語を聞いて内容を推測したり理解したりする力が向上した。
- ・簡単な語句や表現を使って何とか自分の言いたいことを伝えようとするようになった。
- ・友達の新たな一面を知る場にもなるので、児童同士の相互理解が深まるとともに、学級経営にもよい影響を及ぼしている。
- ・英語でのやり取りに対して楽しさを感じるようになってきた。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立村岡小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（子ども同士のやり取り）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業は分かりますか？

H29 83% → H30 90%

Q英語の授業で、自分の好きなことやできることなどを友達に英語で話していますか？

H29 81% → H30 98%

成果②

- ・やり取りで授業を進めることによって、児童が教師や友達の発話をよく聞くようになり、その表現を自分も使ってみよう、応用して言ってみよう、付け加えていってみようと工夫する様子が見られるようになった。
- ・ペア活動やグループ活動を取り入れることで、会話の機会が増え、お互いに教え合う姿も見られた。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～勝山市立平泉寺小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（ALTとのやり取り）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の学習は好きですか？

H29 52% → H30 84%

Q英語の授業は分かりますか？

H29 82% → H30 100%

成果②

- ・言語活動を中心に据えた授業づくりを行っていくことで、児童の、英語を話したい、伝えたいという意欲や伝わったという達成感が高まっている。
- ・複式のため、上の学年の児童は異なる文脈のもとで繰り返し同じ表現を使う機会が増え、自然に語句や表現が身についている。下の学年の児童の活動を助ける場面も多く見られるようになった。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立北郷小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



修学旅行での様子（外国人旅行者とのやり取り）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q学校で外国人の先生が来られたときに、話をしようとしていますか？

H29 51% → H30 100%

Q英語を使って自分の気持ちを話したり書いたりして表現することは好きですか？

H29 90% → H30 100%

成果②

- ・自分が考えたことや思ったことを、既習表現を使って、何とか相手に伝えようとする姿が多く見られるようになった。
- ・言語活動を積み重ねたことにより、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさを実感し、意欲的に授業に取り組んでいる。
- ・保護者会の公開授業で外国語科の授業を行った際は、保護者の方から「こんなに英語を話せるなんて驚いた。」「みんなが楽しそうに活動していて、見ていて楽しかった。」「自分たちが受けてきた英語の授業とは全く違っていてびっくりした。」という感想が聞かれた。
- ・英語でコミュニケーションを行うことを通して、授業の中で児童同士の相互理解を深め、学級作りの大きな一助にもなっている。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動あり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝山市立野向小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題：言語活動を中心に据えた授業づくり

手立て：外国語活動や外国語科の目標達成に向けた授業改善と継続した実践・研究

具体の取組の内容

- 県内大学、県教委、市教委、学校の連携
- 校内全体で行う模擬授業や事前検討会
- 県内大学教授、県教委指導主事による指導・助言
- 公開授業や事後の研究会（県内全域の小中高に案内文書を配布）
- 小小、小中連携を目的とした他校の授業参観



授業の様子（ALTとのやり取り）

成果①

児童の学習への意欲や学習内容への理解が高まった

【アンケートで肯定的に答えた児童の割合（現6年生）】

Q英語の授業は分かりますか？

H29 88% → H30 100%

Q英語の授業で、自分の好きなことやできることなどを友達に英語で話していますか？

H29 50% → H30 100%

成果②

- ・英語の授業の中で覚えた言葉を使って、自分の気持ちを積極的に表現しようとする児童が増えた。
- ・ALTと話す機会が増え、ネイティブスピーカーにも抵抗感なく話すことのできる児童が増えた。修学旅行では、6年生がふるさとPRのために外国人に積極的に話しかける姿が見られた。
- ・ALTと英語で話すために、「〇〇は英語で何とゆうのですか？」と教員に質問しに来るようになった。また、会話をつなげようとする意識が高くなった。

勝山市内小学校における今後の課題・方向性

- ・言語活動を中心に据えた授業展開
外国語活動や外国語科の目標および言語活動のあり方を正しく理解して授業を行う。
- ・市内全体で行う指導力向上
言語活動のあり方について継続的な研究や研修を行う。
- ・教師の英語力
自信をもって外国語活動や外国語科の授業を行うための英語力を授業実践や自己研鑽によって身に付ける。
- ・小中連携
他校種の授業展開や指導法を理解し、系統性を活かした指導を行う。また、校種ごとの課題を精査し、改善に向けて取組を継続する。